

令和7年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立日高特別支援学校高知しんぼんまち分校

《高知県の教育の基本理念》	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かたくたく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	目指すべき姿 学校像	○子どもたちが楽しく学べる学校 ○保護者が安心して子どもを任せられる学校 ○地域にとってなくてはならない存在の学校 ○教職員一人一人が力を発揮できる学校	目指すべき姿 取組の成果 表現に	I 主体性を育む授業づくり・授業改善 ・生徒理解を深め学ぶ意欲を育てる ・指導と評価を一体化した授業改善 ・ICT教育の充実 II 社会生活・職業生活に必要な力の育成 ・生活する力・働く力のスキルアップ ・保護者や関係機関との連携 ・余暇活動の充実 III 地域貢献・地域防災 ・地域貢献活動を通した学びの推進 ・防災教育の充実 IV 働き方改革 ・業務の平準化、ICT活用の促進、休憩時間の確保 V 不祥事防止に向けた取組 ・研修実施、メンタルヘルスケア
《取組の方向性》	《4つの基本方針》 ①「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②「高知家」の子ども誰一人取り残さず、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包括的な教育・支援の推進 ③「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④「学校における働き方改革」、「チーム学校の推進・強化」、「教員等の人材確保に向けた取組」の一体的推進	児童生徒像	○知「確かな学力」を身に付けた生徒 ・基礎的な知識・技能の学びを通して、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けた生徒 ○徳「豊かな心」を身に付けた生徒 ・自他を理解し、他者と協調・協働することができる力を身に付けた生徒 ○体「健やかな体」を身に付けた生徒 ・将来の社会参加(就労)に向けて、たくましく生きるための健康や体力を身に付けた生徒		

《重点取組項目》

項目		取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P-D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
専門性の育 育向上 内容の充 実	主 体 性 を 育 む 授 業 つ 投 入 改 善	○生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、意欲を育てる指導力向上 ○「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学びに向かう力」の育成	【現状】 ①生徒理解を深めるため校内研修を実施し、学びに向かう意欲を育てることに重点を置いて取り組んでいる。 ②各教科の内容を重視しながら、教科横断的な学習計画となるよう意識して取り組み、授業改善を行っている。 ③ICT活用が進み、生徒がPCを使う授業は年々増加、教員のスキルを上げ、効果的な活用となるよう継続して校内研修を行っている。 【目標】 ①生徒理解を深め学ぶ意欲を育てる ・生徒支援会開催：10回 ・個性に応じた適切な支援：自立活動の目標と取組：全員 ②指導と評価を一体化した授業改善 ・教科横断的な指導の年間計画、シラバスの検討：8月、12月 ・目標と評価、方法について研究：8月、12月 ・公開授業の実施：各学習グループ2回以上 ・授業検討：公開授業の前夜 ③ICT教育の充実 ・効果的な活用方法の研修：5回以上 ・他校とのリモート交流：3回以上	①生徒理解を深め学ぶ意欲を育てる ・生徒支援会開催 ・SC、SSWとの連携強化 ・教職員間の情報共有 ・自立活動目標・内容設定シートの活用 ②授業改善 ・校内研究で計画的な取組推進 ・教科横断的な視点の学習計画、実施 ・公開授業の実施 ・改善ポイントを明確にした授業検討 ③ICT機器の効果的な活用 ・教科横断的な指導の年間計画、シラバスの検討 ・目標と評価、方法について研究 ・他校とのリモート交流授業実施 ・GIGAスクールサポーターによる支援	①生徒理解 ・SC・SSWと連携した生徒支援会を開催（1学期：3回） ②授業改善 ・校内研究日の実施（1学期：3回） ・公開授業（12学期）に実施 B ③ICT活用 ・Chromebook教室の実施（1学期：2回） GIGAスクールサポーターによる支援（1学期：2回）	①生徒理解 ・生徒支援会の実施（継続） ②授業改善 ・校内研究日を実施（継続） ・公開授業の実施 ③ICT活用 ・Chromebook教室の実施（継続） ・GIGAスクールサポーターによる支援（継続）			
		○多様なニーズに対応した職業教育の推進 ○自分を知り、自分らしく生きていく力の育成	【現状】 ①職業学習ではステップアップシートの活用が定着し、生徒は現場実習を経験して、働くことへの意識が高まりつつあるが、物や時間の管理、生活や気持ちの安定には課題が残る。 ②保護者や関係機関との連携は進んでいる。 ③意欲的に活動することや良好な人間関係を築くことに課題がある。 【目標】 ①生活する力、働く力のスキルアップ ・自ら考える振り返りの時間設定：職業実技、実習前後 ・自己評価、他者評価のすり合わせ：個別面接 ②保護者や関係機関との連携 ・情報提供：進路便りの発行年間3回以上 ・実習先、進路先の確保：年間30件以上 ・個別別相談会、職場見学の企画運営 ③余暇活動の充実 ・クラブ活動の充実：入部者数、大会等出場者の増加 ・生徒会活動の活性化：生徒主体の行事運営増	①生活する力、働く力のスキルアップ ・JSP制度による専門家の指導・助言 ・ステップアップシートの活用促進 ・道徳、職業など関連する教科で横断的な学習推進 ②連携 ・保護者への情報提供 ・職場見学による意識の向上 ・現場実習、デュアル実習の実施 ・個別相談会による保護者、関係機関との情報共有 ・小・中学校等との情報提供や円滑な引継ぎ ③余暇活動 ・入部や大会出場を促す ・特別活動との横断的な取組	①スキルアップ ・JSP制度の実施（CS：1学期3回 OWは2学期以降に実施） ・ステップアップシートの活用（実習終了後に記載し、活用） B ②連携 ・現場実習中の職場見学、視察 ・研修、進路相談会、個別懇談の実施（継続） ③余暇活動 ・軽音楽部5名、卓球部4名、バドミントン部各、週1回火曜日に1時間程度実施。	①スキルアップ ・JSP制度の実施（継続） ・ステップアップシートの活用（実習終了後に記載し、活用）（継続） ②連携 ・現場実習中の職場見学、視察 ・研修、進路相談会、個別懇談の実施（継続） ③余暇活動 ・入部や大会出場を促す（継続） ・学園祭実施（12月13日実施予定）			
学校設定項目	地 域 貢 献	地域貢献活動を通した学びの推進	【現状】 ①久万川周辺や近隣公園、公民館の清掃に取り組んだ。地域清掃は地域会合を呼びつけたが、参加がなく生徒のみで実施した。 ②場所にとらわれない種類の活動や量についてグループごとに検討し、ICTを活用して校内で発表できた。 ③学園祭の外部参加者は年々増加し90名を超えた。また、アルミ缶回収など地域の協力を得られた。 【目標】 ①地域清掃活動の定着：月2回以上 ②アルミ缶回収の継続：3Rの実践 ③学園祭開催：12月	①地域清掃実施、実施後、検討発表の定着 ②SDGs目標11、12について学習、地域への発信 ③学園祭で地域感謝祭実施	①地域清掃 ・学校周辺、塩田公園、栄田東公園等の清掃（1学期：1回） ・地域清掃後、各清掃グループで発表 ②SDGs学習 ・地域清掃後に実施 ③学園祭 ・実施に向けて計画中	①地域清掃 ・地域清掃の実施（継続） ②SDGs学習 ・地域清掃後の実施を計画中 ③学園祭 ・学園祭実施（12月13日実施予定）			
		防災教育の充実	【現状】 ①外部専門家による災害対策の授業実施や地域や保護者合同の起震車体験を行い、生徒の防災意識向上につながった。 ②避難訓練を実施し、適宜マニュアルの見直しを行っている。 ③教科横断的な学習に取り組んでいる。 【目標】 ①防災について学びを深める：外部専門家との連携3回以上 ②災害時の対応力を養う：状況に変化のある訓練の計画実施：5回以上	①外部専門家との連携 ②避難訓練計画実施 ・通常の地震津波火災訓練 ・状況を変えた訓練 ③教科横断的な学習の計画実施	B ①外部専門家との連携 ・9月19日外部講師による地域合同「防災学習の日」実施 ②避難訓練 ・避難訓練の実施（津波・地震1回、火災1回） ③教科横断的な学習 ・総合的な学習の時間及び総合的な探求の時間等で実施	①外部専門家との連携 ・秋年度に向けての検討 ②避難訓練 ・避難訓練の実施（継続） ③教科横断的な学習 ・教科横断的な学習の実施（継続）			
働き方改革	教職員相互の思いやりと助け合いのある学校づくり	教職員相互の思いやりと助け合いのある学校づくり	【現状】 ①少人数であり、一人が抱える業務量が多い。 ②教材フォルダの活用率はほぼ100%で、全員が活用には至っていない。 ③休憩時間を取らずに仕事をする教職員が多い。 【目標】 ①可能な業務の平準化 ②教材フォルダの活用推進 ・定期的な声掛け ・活用方法の周知 ③休憩時間の意識づけ ・定期的な声掛け	①業務の平準化 ・振り分け可能な業務の洗い出し ・お互いの声掛け、助け合い ②教材フォルダの活用促進 ・定期的な声掛け ・活用方法の周知 ③休憩時間の意識づけ ・定期的な声掛け	B ①業務の平準化 ・担当者明確化、担当以外でも対応可能な資料の作成 ・希望した教員数より、2名減の体制であったが、教員間の協力体制で運営を行った。 ②教材フォルダの活用 ・研修会等での周知 ③休憩時間 ・定期的な声掛けの実施	①業務の平準化 ・担当者の明確化、担当以外でも対応可能な資料の作成（継続） ・お互いの声掛け、助け合い（継続） ②教材フォルダの活用 ・研修会等での周知（継続） ③休憩時間 ・定期的な声掛けの実施（継続）			
		★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○おひい・職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス	【現状】 全教職員が不祥事防止に関する意識をもち、研修できている。 【目標】 ①校内研修実施：3回以上 ②不祥事防止委員会実施：6回以上 ③長期休業中のメンタルヘルスケア実施：1回	①校内研修実施 ・事例検討、事案が発生した場合の対応等 ・不祥事防止月間を設定し研修実施 ②定期的な委員会の開催、現状の把握 ③メンタルヘルスに関する講座実施	B ①校内研修 ・校内研修1学期2回実施（不祥事について、個人情報の取り扱いについて） ②委員会の開催 ・不祥事防止委員会開催（1学期：2回） ③メンタルヘルス講座 ・8月20日に教員メンタルヘルス研修の実施	①校内研修 ・校内研修会の実施（継続） ②委員会の開催 ・不祥事防止委員会の開催（継続） ③メンタルヘルス講座 ・次年度に向けての検討			